令和８年度　福岡県高等学校新人柔道大会

北部ブロック予選会（確認事項・申し合わせ事項）

１　競技規則（開催実施要項より抜粋）

（１）試合は国際柔道連盟試合審判規定ならびに申し合わせ事項で行う。

（２）試合時間はすべて**４分**とする。ただし準々決勝から、それまでは３分とする。
ただし、延長戦（ゴールデンスコア）は時間制限を設けない。

（３）「優勢勝ち」の判定基準

① 団体試合は「有効」または「僅差」以上とする。チームの内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦で得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。**延長戦の場合、「有効」以上もしくは従来通り指導差が出た時点で勝敗を決する。**

※代表戦において、指導の累積により両者反則負けとなった場合には、スコアをリセットし、ゴールデンスコア方式の延長戦において勝敗を決する。また、同様なことになれば再度同じ方法で行い、必ず勝敗を決する。

② 個人試合は「有効」または**「僅差」（指導差２）以上**とする。技による評価が同等の場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝負を決する。また、**延長戦の場合、「有効」以上もしくは従来通り指導差が出た時点で勝敗を決する。**

（４）個人試合において，「同時反則負け」の場合は、次の試合の出場者はゴールデンスコア（時間無制限）で決める。再度両者反則負けの場合は、スコアをリセットしてゴールデンスコア方式で必ず勝敗を決する。

（

２　競技方法（開催実施要項より抜粋）

（１）団体試合は男女ともトーナメント戦とする。

① トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア　判定基準

＊選手対選手それぞれの試合の勝敗は、「有効」または「僅差」以上とする。

＊「僅差」は指導差２とする。

イ　「技の内容」と「指導」の重み

＊【一本勝ち＝反則勝ち＞技有り＞有効＞僅差】の順とする。

ウ　団体試合のチーム対チームの勝敗の決定；以下の項目によって勝敗を決定する。

（ア）　勝ち数の多いチームを勝ちとする。

（イ）　（ア）で同等の場合は、「一本」による勝ちが多いチームを勝ちとする。

＊ただし、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。

（ウ）　（イ）で同等の場合は、「技あり」による勝ちが多いチームを勝ちとする。

（エ）　（ウ）で同等の場合は、「有効」による勝ちが多いチームを勝ちとする。

（オ）　（エ）で同等の場合は、代表戦を行う。

＊代表戦は、その対戦に出場した選手の中から任意に選出して行う。

＊代表戦における、優勢勝ちの判定基準は「有効」または「僅差」以上とする。
ただし、勝敗が決しない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）を時間無制限で行う。
延長戦の判定基準・実施方法は個人試合に準ずる。

（２）個人試合は男女ともトーナメント戦とする。

① トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア　判定基準

＊選手対選手それぞれの試合の勝敗は、「有効」または「僅差」以上とする。

＊「僅差」は指導差２とする。

３　申し合わせ事項

（１）開催要項の競技規則（５）の絞技及び関節技においては、その効果が認められた時は、審判員の見込みによって「一本」の判定を下すことができる。　→　**見込みは取らない**

※高体連においては、締め技で落ちた場合、その後の一連の試合に出場できる。

（２）全国高体連柔道専門部申し合わせ事項により次の項目に関して禁止とし、現行のＩJF ルールにて行う。

①逆背負投　→　指導
②ダイビング　→　反則負け（次の試合出場可）
③ユージングザヘッド　→　反則負け（次の試合出場可）
④ヘッドディフェンス　→　反則負け（次の試合出場可）
⑤ピストルグリップ　→　ポジティブ状態は指導ではない。ネガティブ状態は指導
⑥袖口に指を入れる（寝姿勢、立姿勢共に）　→　指導

（３）試合場の確認

観覧席

	第２試合場	第１試合場	
（選手待機）	（試合場）	（試合場）	（選手待機）

本部席

ア　団体試合は、ミックスゾーンから試合場側には、監督１名と選手・補欠以外は入れない。
イ　個人試合は、自身の近い待機場所から入場する。

（４）場内外について
ア　抑え込みの場合、場外の障害物（競技役員の机、スコアボード等）に触れた場合は、障害物を取り除き継続する。
イ　各試合場の共有ゾーンでの「抑え込み」は、先に「抑え込み」を宣告した試合場を優先する。後から接触してきた方は「待て」を宣告して、立ち勝負から開始する。
ウ　試合場の両サイドが狭くて危ない場合があるので、その場合は主審の判断で「待て」をかける。

（５）審判員について
ア　禁止事項を犯した場合の処置
① 副審の確認と試合者（赤白）の確認を必ず行う。
② 異議や問題が生じた場合は、速やかに合議を行い試合続行する。
③ 不測の事態が生じた場合は、本部に申し出て専門委員会からの指示を受ける。
イ　技の効果の宣告
① 副審は主審の宣告後、速やかに内容を確認し、異議がある場合はジェスチャーで、主審に知らせる。
② 主審は、同体に近い場合の宣告後、必ず開始線を指し紅白のどちらの選手のポイントかを明確に知らせる。
ウ　同時反則負け及び一発反則負けの処置について
① 個人試合において同時反則負けは、ＧＳ（ゴールデンスコア）を行う。
② 団体試合においての一発反則負け（累積の反則負けではない）を犯した選手は、チームが勝っても次の試合には出場できない。
③ 一発反則負けの場合は、団体試合・個人試合の関連は一連の試合と見なさない。

（６）柔道衣コントロールについて**（厳重に行う）**
ア　柔道衣コントロールは、開会式・開始式後に全審判委員で行う。
イ　帯の結び方は，通常の結び方を指導する。（ほどけないように結ぶ）
ウ　袖の長さは、手首の長さまで確認。

＜連絡事項＞

〇第６５回（男子）第３３回（女子）福岡県高等学校新人柔道大会
（男子団体６校・女子団体４校、男子各階級６名・女各階級３名）
令和８年１０月２４日（土）～１０月２５日（日）　福岡武道館